



第67号
令和8年1月24日発行
近畿大学附属
新宮高等学校
中学校保護者会
新宮市新宮4966番地
<https://www.shingu.kindai.ac.jp>



長くて短い三年間を振り返って

高校3年D組 曾越胡未

長かったようで短かった高校三年間。この三年間はたくさんの人に支えてもらい成長することができました。また近大新宮ならではの経験や出会いを通して楽しかったこと時には苦しかったこと全てが良い思い出となりました。

入学式、三年前の4月7日

た。時には叱られる時もありましたが、大会や遠征での晩ご飯や温泉を共にして仲間と想いを分かち合い、楽しい日々を過ごすことができました。こうして私がのびのびとバスケットボールをすることができたのは、顧問の先生を始めとする引率などをしてくださった先生方や保護

者などたくさんの人たちの支えがあったからこそだと思っています。本当にありがとうございます。

この三年間で出会った友だちや親身になってくださった先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。資格試験や大学入試の際も多くの先生に添削指導や面接練習をしていただき、本当に感謝しています。

たくさんのお出会いと出来事で充実した三年間を送ることができました。いつも温かく見守ってくださった先生方、本当にありがとうございます。



これからも 応援団の一員として

高校3年生保護者 福田ルミ

でも緊張していました。しかし、今では当時では考えられない程みんな仲良くなり、近大新宮祭などの学校行事や部活動を通して絆も深まったと思います。特に最後の文化祭では、クラスのみならず放課後残って準備して、当日の予想を超えた忙しさもみんな協力し無事終えることができました。

この春、長女の卒業とともに我が家の近大新宮生活もゴールを迎えます。思えば十一年前の秋、「近大新宮に行く。サツカーも続けるわ」と、オープンスクールから帰った中学三年生の長男が言い出したところから始まり、その後も次男、長女と続いてご縁をいただきました。

目指す先輩、切磋琢磨し合える仲間たちに出逢えたことは、

きました。保護者仲間の皆さんとは、たくさんおしゃべりをしながら、親も知らない我が子の意外な一面を教えてもらった。友人たちの活躍と一緒に応援したりと、楽しかった。時間を過ごさせていただきでした。今、親としてたどり着いた思いは、「子どもがうまいかいかにことにつかつている時こそ、ちゃんと構えて見

バスケットボール部での活動も大切な思い出です。バスケットボール部を通して先輩や後輩、顧問の先生などたくさんの人と関わり色々な日々を過ごす中で、技術だけでなく挨拶や礼儀など人として大切なことを教えていただきました。

我が子たちの高校生活にとって何より大きな財産でした。部活動での成果やスランプを共有しながら、その時々にはびつたりの声かけや激励をしてくださった先生方の連携に、部活・学業を両立の道を選んだ三人の子どもたちの高校生活を支えていた

守ることが大事だ。それは将来に向けて折り合いをつけたら、跳ね返したりする力をつけている最中なのだ」ということです。

近大新宮ブルーのサッカータオル、「限界突破」のなぎなた手ぬぐい……親も子も、



齋藤はな(高校2年B組)

たきました。故郷の
学び舎での思い出を糧
に、卒業生の今後の活
躍を願いつつ、これか
らも応援団の一員とし
て近大新宮の発展と皆
さんのご活躍をお祈り
いたします。

長い間、ありがとう
ございました。

硬式野球部 秋季大会

部長 宮本俊子

秋季大会 初の県優勝という結果を残すことができました。大会期間中、多くの方々に力一杯応援していただきました。心から感謝申し上げます。

「一次予選を突破するにすぐ二次予選のクジ引きがあり、西島キャプテンの前に4つの封筒が置かれていました。智辯と逆ゾーンを引け!」と念じておりましたが、3ヶ月連続で吸い寄せられるように智辯和歌山を引き当てました「またか!」と思いましたが、「どうやら智辯に勝っているのだろ!」という思案に勝っている選手たちの姿を見て、3度目の正直で今回は勝つんじゃないか!という思いがわ

試合前、ロッカールームで「今日は近大新宮の新たな歴史を刻む日です。絶対智辯に勝つぞ!」と声をかけました。そしてその通りの結果を出してくれました。近畿大会をかけた箕島戦に勝利し、継続試合となった市立和歌山との決勝戦も制しました。選手たちは一戦一戦成長し、頼もしくなっていました。それに一番身近で見ることができた。それが幸甚な時間を過ごすことができました。

近畿大会は東洋大姫路と対戦し

強豪が残念なから敗退することなく戦うことが、
に気後れするこゝとなく戦うことなか
できましたが、センバツ出場にはは
手が届きませんでした。これは野
球の神様が「もつともつと強くわれ
る！」と叱咤激励をしてくれていた
のだと思います。勝つ喜びと負け
を悔しうさの両方を知る選手たちと
共に、夏は再び頂点を目指します

令和7年度 秋季大会を終えて

監督 産屋敷秀信

今年度は、春、夏、新人大会と
3度続けて初戦で敗退してしまいい
ました。もうずっと勝てないのは
はないかと不安がよぎり、どうす
ればよいかわ悩み考えました。しか
ば、選手たちは前向きでした。主
体的にミーティングを重ね、チー

しくお願いします。

主将 西島大波(大波)2E

新人戦の一回戦負けから始まったチームでした。秋大会はこれからどうなるのだろうかと不安な気持ちでいっぱいでした。そんな状態でいつまで一回戦に臨み、勝利することができてチームのまとまりができていました。その後はチーム一丸となり、一戦一戦戦むことができました。

秋季大会を振り返ると本当にたくさんの方々の支えで優勝することができたと思います。ありがとうございます。

ありがとうございました。感謝の気持ちを忘れることなく、春夏の大会に向かって頑張っていきます。これからにも応援よろしくお願いします。

関係者などたくさんの人たちの応援の力のおかげだと思っています。本当にありがとうございます。

春のセンバツがかかった秋季近畿大会では力及ぼすに負けてしまいましたが、チームを支えてくれている多くの人たちと応援し、つれていく人たちの期待に応えられるよう、第108回夏の選手権和歌山大会は優勝して甲子園でプレーするための準備をしっかくとしていきたいと思います。これから近大新宮高校の応援をよろ

しい勝利でした。その後の試合は強いに乗り一戦一戦成長しながら勝利を重ねていき、優勝することができました。野球は勝ち続けていくのは難しいスポーツです。勝つことができたのは、主体的にミーティングをしたこととプラス思考者・常笑軍団が選手たちの潜在能力を引き出せたからだと思います。それと野球に集中できる環境を作ったことだ。学校や保護者の方々と卒業生とその保護者の方、地域

秋季大会

ムに何が足りないのか、どういう取り組みをしていけばいいのかを決め、それを実行に移していきました。そして迎えた秋季一次予選の初戦、海南高校相手に4対2での理想的な試合で勝利する事ができました。この1勝は本当にうれ





体育行事
9/26



